様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：１７７０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2018
課題番号：２６３５０７２４

研究課題名（和文）地域開発からみた日本の伝統的運動文化の現代的意義と新たな価値創造の探究

研究課題名（英文）Research on the significance of traditional Japanese sport culture and the new value it creates in modern communities from the standpoint of regional development

研究代表者
山田　理恵（YAMADA, Rie）

鹿屋体育大学・スポーツ人文・応用社会科学系・教授

研究者番号：６０３１５４４７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本に現存する伝統打球戯と伝統綱引きに着目し、現地調査および資料収集を行い、それらの実態と文化的特徴を分析することを通して、伝統的運動文化の現代的意義と課題を地域開発の観点から考察した。地域の自然と歴史を背景に育まれ継承されてきた、それぞれの地域に固有の伝統綱引きや伝統打球戯は、その地域の人々のアイデンティティを強固なものにし、また連帯感の強化や世代間交流の促進など、地域の持続的、内発的発展に寄与する機能を有することが考察された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
体育･スポーツ科学の研究領域において、スポーツと地域開発についてはこれまで、主として社会学的、経営学的視点から論じられてきており、本研究に着手するまでは、スポーツの文化人類学的、歴史学的アプローチから伝統的運動文化の地域開発における意義と在り方を考察した研究成果は乏しかった。したがって、本研究の成果は、スポーツの文化人類学的、歴史学的研究およびスポーツを通じた地域開発研究に新知見をもたらすものと位置づけられる。

研究成果の概要（英文）：The purposes of this study were to examine the actual conditions and cultural features of traditional stick games and tug-of-war events held in local districts in Japan, and to clarify the cultural significance and issues of these traditional sports and games from the standpoint of regional development. The materials used in this study were collected mainly through fieldwork and investigations of historical sources. The findings of the current study indicate that these traditional sports and games that evolved from nature and the history of each region can play important roles in maintaining local communities and their internal development in Japan, such as strengthening the identity of residents, enhancing the sense of togetherness, and promoting intergenerational interactions among residents. In these aspects, we can find the modern significance of traditional sport culture.

研究分野：身体運動文化論

キーワード：スポーツを通じた開発　伝統的運動文化　打球戯　綱引き

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、スポーツの文化的な価値を重視し、スポーツを通しての開発（地域開発、国際開発）が注目されるようになってきた。そのようななか、日本各地に現存する伝統的運動文化の実態は、地域の活性化や健康づくり、教材化等、スポーツと地域開発を考察するうえでの好事例となると考えられる。国内におけるスポーツと地域開発に関しては、リゾート開発、プロスポーツ、ツーリズム、総合型地域スポーツクラブ、スポーツイベント等が論じられているが、伝統的な運動文化の意義と価値については、あまり注目されていない。

したがって、日本に現存する伝統綱引きと伝統打球戯が、それぞれの地域の特性と文化的状況のなかで、どのような形態と目的･意義をもって地域にねざしているのかを分析し、地域開発の観点から伝統的運動文化の意義と新たな価値を考察する本研究は、身体運動文化研究に新知見をもたらすものと位置づけられる。

２．研究の目的

本研究では、日本各地に現存する伝統綱引きと伝統打球戯に着目し、現地調査と資料収集を行い、それらの実態と文化的特徴を明らかにするとともに、地域の教育や活性化における意義を分析することを通して、伝統的運動文化の新たな価値として、地域開発におけるそれらの意義と在り方について考察することを目的とした。

３．研究の方法

本研究では、長期的な計画で現地調査と資料収集を行い、それらの成果に基づいて、日本の伝統的な運動文化の文化的意義と課題について考察を行った。具体的には、次の通りである。現地調査では、日本各地に現存する伝統綱引きと伝統打球戯について、学校教育のなかでの教材としての実践事例及び地域における行事･活動の実態と地域における意義について調査した。特に、伝統綱引きは日本各地で行われていることから、広範囲にわたり調査を実施した。また、日本の伝統打球戯との関連から、アジアの打球戯および日本の馬事文化についても資料調査を行った。さらに、日本の伝統綱引きの文化的特徴を考察するために、中国、韓国の綱引きについても資料収集を行い、それらの形態や特徴を比較した。研究成果の公表は、毎年度行った。

４．研究成果

(1) 日本に現存する伝統打球戯については、三重県桑名市に伝わる「桑名の打毬戯」「薩摩のハマ投げ」を中心に、地域開発という観点からそれらの実態と文化的特徴、現代における意義と課題について考察した。「薩摩のハマ投げ」については、参与観察も行った。また、明治中期の教材としての打球戯に関する史料調査も行った。

「桑名の打毬戯」（三重県桑名市）は、打毬、玉入れ、押し合い、の３種から成る。この遊戯は、白河藩で行われていた打毬が桑名藩に伝わったものの系譜をひくと考えられる。今日では、保存会の指導・協力のもと、桑名藩藩校・立教館の名残を校名にとどめる桑名市立立教小学校の児童たちによって継承されており、立教地区と同小学校合同の運動会で披露されている。このような「桑名の打毬戯」の取り組みは、地域の伝統的運動文化を通して、地域と学校との連携が強化されるとともに、地域の人々のアイデンティティをより強固なものにし、それが地域の活性化にも繋がっている事例として注目される。

(2) 今日日本各地では、特色ある伝統綱引きをみることができる。なかでも、鳥取市気高町水尻地区の「因幡の菖蒲綱引き」は、子ども主体で行うという伝統性を失わずに地域が一体となって継承している事例として注目される。

また、子ども組と大人組で菖蒲綱を引き合う「但馬久谷の菖蒲綱引き」では、人口が減少するなか、激しい動作による綱の製作工程、その工程や綱引きの場面で独特の風情を醸し出す「石場搗き唄」を歌い上げられる人材も限られ高齢化しており、後継者の育成が急務である。近年では、子どもの参加者を増やす試みもなされている。

これら二つの伝統綱引きでは、同じ国の重要無形民俗文化財であり菖蒲を用いた菖蒲綱引きでありながら、それぞれ固有の形態と文化的特徴を有する。しかしながら、人口の減少と少子高齢化が進むなか、地域の繁栄と活性化を願って地域住民が一体となって保存・継承してきたことは、両綱引きに共通している。それはまた、桑名の打毬戯や薩摩のハマ投げという伝統打球戯の場合にも通ずるものである。

(3) 滋賀県大津市の日吉御田神社の綱引き神事、難波八阪神社の綱引神事(大阪市指定無形民俗文化財)、鳥取県米子市の「上淀の八朔綱引き」、佐賀県唐津市の「呼子大綱引き」、鹿児島県南さつま市の「十五夜綱引き」、長野県松本市の「事八日行事　追倉の綱引き」、静岡県浜松市天竜区春野犬居「つなん曳き」、鹿児島県の「十五夜綱引き」(県南さつま市上之坊、鳥越、南九州市知覧)、沖縄県那覇市那覇大綱挽き、石垣島豊年祭の綱引き、福島県会津高田(美里)と同坂下での大俵引き、福島県磐梯町での舟引き祭りについても、現地調査や資料収集を行った。また、韓国の蟹綱引きに類似の北海道アイヌの綱引きの由来と現状などについても資料収集を行った。

(4) 伝統綱引きとの比較という観点から、「いちはらの大綱引き」(千葉県市原市)など、近年行われるようになった綱引き関連イベントについても、現地調査や資料・情報収集を行った。さらに、北海道江別市の市民まつりにおける綱引きと、それに関連して土佐市の大綱引き(土佐市大綱まつり)（参与観察）についても、まちづくり、地域振興、連携などの政策のなかでの

イベントとしての綱引きの活用事例として調査した。

(5) 日本の綱引きについてはまた、江戸末期までのさまざまな文献にみられる絵図のなかから、綱引きの光景があるものを収集し、今日まで伝承されている場合については、実態と照らし合わせ考察を加えた。用いた江戸期の史料は、屏風や襖に描かれた風景画、幼児の遊びを主とした絵本、年中行事を略説した歳時記の挿画、紀行文、諸国の名所図会などである。

韓国の綱引き行事については、韓国慶尚南道宜寧郡において無形文化財に指定されている宜寧クンジュルテンギギ（綱引き）、密陽市甘川で「百中ノリ」と蟹綱引きの調査を行った。中国では今日、日本や韓国と違って、生業とかかわり豊作豊漁への年占的祈願という信仰上の意味をもつ綱引き行事は無くなっている。しかしながら、貴州省トン族の民俗調査では、正月の村落の活動としてこの伝統的競技が行われており、現代的意義を付与されて復活していることは明確である。

(6) スポーツを通じた開発(地域開発、国際開発)については、嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター（online）によると、「……明日を創造する新しい社会のあり方として『スポーツを通じた開発』という考え方が生まれ、ヒト、地域、国づくりに役立てられ始めている」(嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター、online)。そして、そのような「スポーツを通じた開発」は、「一般的に国内で行われる『スポーツを通じた開発（DTS: Development through Sport)』と国際で行われる『スポーツを通じた様々な開発への試み(IDS: International Development through Sport)』」に分類されている（前掲、online)。また「DTS と IDS に関する根源的要素としては、①スポーツそのものを開発する『スポーツ開発』と②スポーツを手段として課題解決に取り組む『スポーツによる開発』、そして、③スポーツを触媒として情報を共有する『スポーツを通じた開発』の全てを合わせもった開発手法、分野、概念と表現でき」ると述べている(前掲、online)。同センターによるこのような解説は、管見の限りにおいて、スポーツによる開発(地域開発、国際開発)の概念を明確に示したものといえる。

本研究で取り上げた、日本の地域に現存する伝統打球戯や伝統綱引きは、それぞれの地域の自然と歴史を背景に、地域住民のアイデンティティを強固なものにし、連帯感の強化や世代間交流などの役割を果たしており、担い手･継承者の育成という課題に直面しながらも、地域の持続的、内発的発展に寄与する機能を有しているといえる。

地域の伝統的な運動文化を通じた地域開発（地域づくり、地域活性化、内発的発展）の意義と課題を考察した本研究の成果は、スポーツの文化人類学的、歴史学的研究およびスポーツを通しての地域開発研究の充実に寄与するものと位置づけられる。

【引用文献】

嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター（online）オリンピック・ムーブメント:スポーツを通した国際協力. http://100yearlegacy.org/Olympic_Movement/ids/

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　6 件）

1) 櫻井龍彦（2018）江戸期までの綱引き風俗図誌の集成と考察．名古屋大学大学院国際開発研究科 GSID Discussion Paper，査読無，208:1-47.
http://doi.org/10.18999/disp.208.1

2) 山田理恵，森規昭（2017）伝統綱引きの現代性：鳥取市気高町水尻における「因幡の菖蒲綱引き」に着目して．体育学研究，査読有，62(1)：83-104.
DOI: https://doi.org/10.5432/jjpehss.16033

3) 櫻井龍彦（2017）中国の「抜河」に関する史料と考察．名古屋大学大学院国際開発研究科 GSID Discussion Paper，査読無，204：1-36.
http://doi.org/10.18999/disp.204.1

4) 櫻井龍彦（2016）日本的山神．中国山地民族研究集刊,2015 年巻第２期（総第４期）：3-24, 査読無，社会科学文献出版社.

5) 山田理恵（2015）地域開発からみた伝統的運動文化の意義：桑名の打毬戯の展開と現代における価値考察．体育学研究，査読有，60(2)：415-428.
DOI: https://doi.org/10.5432/jjpehss.14105

6) 櫻井龍彦（2014）北海道アイヌの綱引きに関する考察―あわせて韓国の「게줄다리기：ケジュルタリギ（蟹綱引き)」、中国の「大象抜河（象綱引き)」を論ず．江原道民俗学会(編)，2014 雪の民俗と文化国際学術大会－アジアの雪民俗と文化　学術発表論文集，査読無，71-96.

〔学会発表〕（計　13 件）

1) 山田理恵（2018）難波八阪神社の綱引き神事について．筑波大学体育史・スポーツ人類学研究室平成 29 年度最終発表会及び体育・スポーツ史研究会.

2) 山田理恵（2017）日吉御田神社の綱打ち神事について．筑波大学体育史・スポーツ人類学研究室平成 28 年度最終発表会及び体育・スポーツ史研究会.

3) 山田理恵 (2017) 現代に生きる「薩摩のハマ投げ」. 鹿屋体育大学･かごしま県民大学連携講座.

4) 山田理恵(2016) 伝統的運動文化を通じた地域開発―薩摩のハマ投げの現代的意義と課題―. 破魔投げ研究会（招待講演).
5) 山田理恵（2015）伝統的運動文化と地域開発―「但馬久谷の菖蒲綱引き」を事例として―．日本生涯スポーツ学会第 17 回大会.
6) 山田理恵・森規昭（2015）伝統的運動文化の現代的意義と課題―鳥取市気高町水尻地区における「因幡の菖蒲綱引き」を通して―．日本体育学会第 66 回大会.
7) 山田理恵（2015)スポーツ国際開発学の探究―人文科学的立場から―．第２回スポーツ国際開発学研究会（招待講演).
8) 櫻井龍彦（2014）北海道アイヌの綱引きに関する考察―あわせて韓国の「게줄다리기：ケジュルタリギ（蟹綱引き)」、中国の「大象抜河（象綱引き)」を論ず．江原道民俗学会・平昌伝統民俗保存会(韓国平昌市).

〔図書〕（計　１件）
1) 山田理恵（2019）二つの菖蒲綱引きと地域開発．掛水通子(監)，山田理恵他(編著)，身体文化論を繋ぐ―女子・体育・歴史研究へのかけ橋として―．叢文社，pp.353-364.

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：櫻井　龍彦
ローマ字氏名：(SAKURAI , Tatsuhiko)
所属研究機関名：名古屋大学
部局名：人文学研究科
職名：名誉教授
研究者番号（8 桁)：60170643

(2)研究協力者
研究協力者氏名：村井　文彦
ローマ字氏名：(MURAI, Fumihiko)

研究協力者氏名：森　規昭
ローマ字氏名：(MORI, Noriaki)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。